

平成 20 年度 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会 議事概要

○日時：平成 21 年 3 月 13 日（金）10:30～12:30

○場所：多田記念大野有終会館 3 階 大会議室

○議事内容

1. 平成 20 年度の各機関の取り組み状況及び調査結果

2. 平成 21 年度の活動予定

について事務局および関係委員から説明

主な質疑応答、意見の内容は、以下のとおりである。

1. 平成 20 年度の各機関の取り組み状況及び調査結果

(1) 九頭竜まつり

- ・ 紅葉まつりの客は、市街地にも流れてくるのか？

→同日では難しい。合併したことであり、市街の文化会館あたりへの集客も考えたいが、もう少し時間が必要。

(2) 「水源地の森づくり」植樹会

- ・ 以前に植えた苗木が枯れてしまっているが、植え方の他に苗にも問題があると思う。苗は植樹祭に向けて各地区で育てており数が多いが、3 年ものくらいでないと育たないのではないかと思う。小さい苗は 2、3 本一緒に植えた方が良いのではないかという意見もあり、もう少し研究したい。
- ・ 植樹祭に向けて、福井市内の小学校では方々に沢山の苗があるため、今年は分布図を作って紹介できるのではないかと考えている。
- ・ 行事として植樹会を行うと、アクセス性や駐車スペース等を考慮する必要があるため、本来は植樹地としてあまり適さないようなところを会場として選ばざるを得ないというような事情もある。今後は植えるだけではなく、その後の維持管理を含めた取り組みも必要だと感じている。

(3) 越前おおのエコフィールド

- ・ このような拠点があると、参加しやすいと思う。

(4) 九頭竜自然楽校

- ・ 年々参加者が増えているようで、素晴らしい取り組みだと思う。

(5) 真名川ダム弾力的運用管理

- ・ 下流に住む者としては非常にありがたく思っているが、実際にどれくらいの効果があ

るのか？ 下流の水枯れや樹林化をダムからの放流によって進行を少しでも抑制するような管理は出来るのか？

→真名川はダム以外からの流入がほとんどなく、九頭竜川本川に比べてダムの影響が非常に大きいため、ダムでできることとして、九頭竜川の合流点までを対象としてこのような取り組みをしている。樹林化は、足羽川のようなダムのないところでも起こっており、昔と比べて大きな洪水が減ったというような気象条件の変化も大きな要因としてあるようである。下流へと効果を及ぼすためには、なるべく大きな流量がよいが、人工的に洪水を起こすことから、放流量には限界がある。フラッシュ放流の試みは全国的にいくつかあるが、放流によって自然再生を試みているダムは全国的にもあまりない。平成 19 年度は人工的な水路をつくったが、平成 20 年度は元々あった旧河道を利用しており、なるべく費用をかけずに、毎年少しずついろいろな場所でこのような試みを続けていけるのではないかと考えている。

(6) 北陸電力西勝原第二発電所石積導水路の公開

- ・ イギリスでは産業遺産が観光資源になっている。ダムも産業シンボルとして、見学とかダムマニア等が出てくるのは分かるような気がする。そういうことに積極的に接点を持っていくことは大変素晴らしいと思う。
- ・ 記者だけではなく一般への公開を行ったり、イベント的に披露してはどうか。観光資源としても興味深い施設だと思う。

→今回の施設は安全面で難があり、記者への公開にあたっては安全対策を行ったが、一般公開となると、安全面での配慮がより一層必要になる。発電所の一般公開に関しては、各地で行われているが、十分可能だと思う。

(7) ダム湖畔における青葉の笛の月見演奏会

- ・ 3 年前から 9 月の名月の土日に、下半原のダム湖畔で月を愛でながらの笛の演奏会を行っているが、昨年はダム湖の水が少なく、かなり前の方に行かないと月が見れない状況だった。ダム湖の水が多ければもっと楽しんで頂けたのではないかとと思う。

→昨年は渇水傾向だったため、水位が低かったと思われるが、時期に合わせて水位を上げるといことも難しいので、あるものを何とか活用して頂けたらと思う。

2. 平成 21 年度の活動予定

- ・ 当委員会で行っている植樹会を全国植樹祭の関連行事にできないか？
→持ち帰って検討する。

3. その他

- ・ ダムは地域の支えであると感じた。災害に対する安全や、安定的な水供給、それを利

用した電力供給等、ダムから受ける恩恵は非常に大きい。水は「社会資本」を生み出す「社会資源」だと思う。そういった意味で、ダムを抱える水源地域の保全と活性化は重要な課題であり、委員会の皆様には、普及・啓発活動へのご協力をお願いしたい。

- ・ 昨今、自然環境保全が大きな課題となっている。ダムを広い意味での水資源として、地域の産業や生活に活かして頂きたい。水源地域の環境保全は今後益々重要になってくる。今後は、当委員会が核となり、関係団体が互いに交流・協力しながら、ビジョンを盛り上げていくことが必要だと思う。
- ・ 大野には非常に良い自然がある。こうした1つの取り組みを通じて、自然と自分達がいかに共生して暮らしていけるかとか、リフレクションとして参加できるかということが自然になってくるのがこれから重要なことだと思う。

以上